

高校生と創る演劇

滅びの子らに
星の祈りを
2018. 11.3 土・祝 13:00
18:00
4回 13:00
17:00
Dystopia before Utopia

報告書



高校生と創る演劇

2018
11.3sat 4sun
Toyohashi Arts Theatre
PLAT

2月11日[日] 募集告知開始

4月20日[金] オーディション申込締切

5月19日[土] 20日[日] 27日[日] 第1次オーディション
第2次オーディション

キャスト確定

キャスト希望が22名、スタッフ希望が4名、計26名の応募があった。第1次オーディションでは自己紹介をした後、シアターゲームで緊張をほぐし、後半はお互いの体験を短いエピソードにして発表を行った。第2次オーディションではアートスペースの舞台上を歩き空間を把握したり、穴の空いた短いテキストをグループで発表した。このワークショップオーディションを通して出演者12名、高校生スタッフ8名の参加が決定した。



8月13日[月] ~16日[木] プレワークショップ

プレワークショップ

オーディション後、高校生出演者・スタッフの顔合わせの場でもあるプレワークショップを開催。ゆる体操やアイソレーション(体の一部のみ動かす体操)を通して身体意識を育み、シアターゲームを通して一体感とリズムの大切さ、そして周りを見ながら歩き回り空間を把握する力を丁寧に積み上げていく4日間となった。また、舞台美術の原田愛による美術ワークショップも実施し、演じることだけでなく、舞台を創り上げていく事全体に視野を向け、多くの発見をする濃厚な時間となった。



8月24日[金] 29日[水] 9月1日[土] 11日[火] 14日[金]・17日[月] 15日[土] 22日[土] 自主練習開始
チラシ・ポスター完成
チケット会員先行発売開始
発声レッスン
須貝英 過去作品上映会
チケット一般発売開始
美術打合せ@東京

9月24日[月]~30日[日]

10月1日[月]~7日[日]

8日[月・祝]~14日[日]

16日[火]~21日[日]

22日[月]~28日[日]

29日[月]~11月2日[金]

1週目
2週目
3週目
4週目
5週目
6週目



11月3日[土・祝] 4日[日]

本番
本番映像上映会

◆13時・入場者133名 / 18時・入場者169名
◆13時・入場者154名 / 17時・入場者178名
●総入場者数634名

2019年
3月7日[木]



【稽古】

第1週目

●9月24日(月) — 9月30日(日)

今年で5年目となった「高校生と創る演劇」。本企画初参加の高校生が大半を占めており、どのように稽古が行われていくのか期待と不安が入り混じった表情が伺えた。稽古初日は全8回行った自主練習で磨いたシアターゲームの腕を演出部に披露し、稽古場の空気が温まってきた。配役が発表され緊張感が漂う中、本読みが始まる。1週目の稽古では丁寧に脚本を読んで世界観を共有しながら単語のアクセントを一つずつ確認し、シアターゲームを通して連帯感を深めていった。高校生スタッフはキャストの代役やその日の共有事項を日誌にまとめるなど稽古をサポートする仕事や、「Writer」や手書きのボスターで稽古場の様子や作品の魅力を外に向けて情報発信することに精を出した。



【稽古】

第2週目

●10月1日(月) — 10月7日(日)

微調整をした脚本の最終稿を配り、立ち稽古を開始。作中に出てくる「アルゴス」という通信機器を使う時の動きを付ける。また最後にキャスト全員で歌う「Blowin' in the wind」の歌唱練習が始まった。舞台美術の模型も届き、より一層作品のイメージが膨らんでいく。ウォーミングアップでは次々に新しいシアターゲームを取り入れていった。身体の使い方を意識し、周りに向けて視野を広げ、仲間とのコ



ミュニケーションを重ね、底力を付けていった。土曜日には本企画の音響、島貫さんが音響を担当しているKAKUTAIの「ねこはいる」を全員で観劇。実際に自分たちが舞台上立つアートのスペースで上演される公演を目の当たりにし、客席へ芝居を届けることへの意識が高まった。

【稽古】

第3週目

●10月8日(月・祝) — 10月14日(日)

作品の演出が決まり始め、衣裳や小道具の製作・収集について高校生スタッフが動き出していく。衣裳担当はキャスト一人一人に合わせた制服のデザイン案を出し、衣裳の富永美夏さんや演出部に確認を取りながらプランを決定。また、制服につけるチャイナボタンを大量に手作業で作らせた。小道具担当は段ボールで何種類もの弓を試作し、カッターを被った時にどうすれば不自然にならないか等試行錯誤していた。キャストの稽古では、シーンごとに演じた内容について各チームで話し合い、意見を発表する場が設けられるようになった。意見と演出とを辛抱強くすり合わせる作業が繰り返される日々。テスト週間に入り、わずかな空き時間には稽古場に用意した机で勉強に励む姿も見受けられるようになった。週末には衣裳の丈決めと、初めての通し稽古を行った。

【稽古】

第4週目

●10月15日(月) — 10月21日(日)

キャストは感情のリミッターを外す自己解放の訓練を実施。自分の限界を超えるのに苦労するキャスト達だったが、何回か行う内に感情の振り幅が広がる様子が伺えた。そして稽古場には舞台監督の鳥養友美さん、照明の富山貴之さん、音響の島貫さんが合流。仮小道具が稽古場で使われるようになり、「Blowin' in the wind」のギター練習が始まって、これまで曖昧だったシーンがより本番の形に近づいていく。高校生スタッフは20日の衣裳合わせに向けて衣裳・小道具づくりに集中。また、舞台美術が到着し、舞台監督と一緒に色塗りをする作業を行った。映像編集が得意なスタッフは、キャスト一人一人のメッセージ動画の撮影を開始した。

【稽古】

第5週目

●10月22日(月) — 10月28日(日)

舞台美術が仕込まれ、稽古場を創造活動室Aから上演会場のアートスペースへ移動。緊張と興奮が入り混じる中、本番と同じ空間で照明と音響を入れた稽古を繰り返して、作品をブラッシュアップさせていく。また、作中には出てこないが、皆で修学旅行の冊子を作成した。作中に行く予定だった修学旅行の細部を描き出すことで共通認識を深めた。高校生スタッフはスポット照明の練習、開場アナウンスの録音、音響操作、衣裳や小道具の管理、ハンフレットの原稿集めなど各部門に分かれ本番



【稽古】

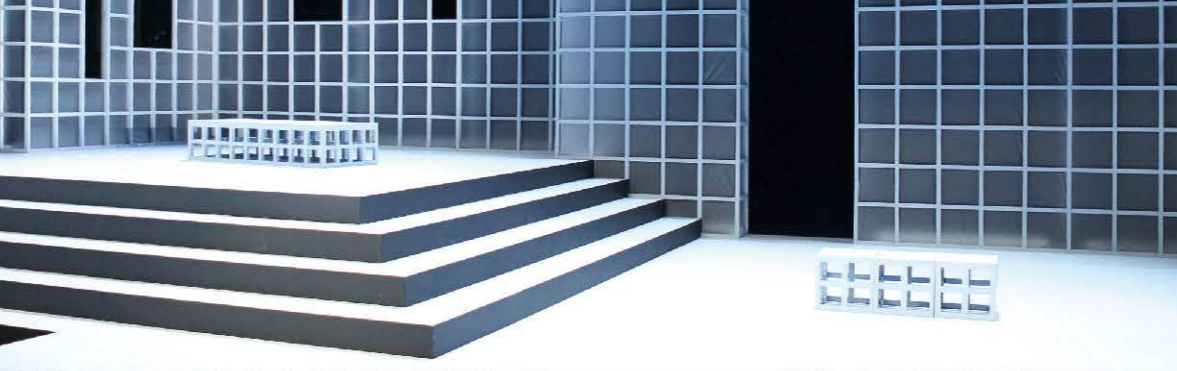
第6週目

●10月29日(月) — 11月2日(金)

29日には家族や同級生、部活仲間を招いて公開通し稽古を行い、本番前に人前で演じる緊張を体感した。また実際に初めて観る人の意見を貰うことで、本番直前に改めて「作品を見せる」ことを見直す時間にもなった。高校生スタッフは公演のサポートをしながらも、ホワイエ装飾に取り掛かる。観客を招き入れ、作品をより一層楽しんでもらうための仕掛けを模索した。稽古最終日にはケネプロを行った。それぞれが緊張、期待、不安、意気込みを抱えながら、本番に向けて最後まで試行錯誤していた。



滅びの星の祈り
Psychia before Utopia



★高校生 スタッフ紹介

- ① 他己紹介
- ② 減んでいく世界の中で、残していきたいものは？
- ③ 最近あったユリイカ！なことは？



伊藤初音 HATSUNE ITO

① スタッフとして、代役や小道具づくり、そして持ち前の明るさとパワーで私たちキャストのケアもしてくれちゃいます！マジッサージしてもらったら体がほぐれて超々気持ちよかったです♡(石渡愛乃)

② 大切な物人と日本文化、家族、友達好きな人、宮野真守など……アニメや声優も残したい！

③ 代役の難しさと自分自身ストーリーカー気質だったこと。代役は欠員が出た時などに担当します。相手のテンポとか合わせたりとか、難しいけどやりがいあって楽しい！後者についてはノーコメント(笑)



岩瀬藍末 AIMI IWASE

① いわせはとにかくおしゃべり！衣装のリーダーとしてたくさんアイデアと経験とユーモアでみんなを引っ張っていつてくれる頼りになる姉貴的存在です！(富岡紗希)

② 街にかすむ星のこと忘れたくない。あの星に何時かの誰かがいるのかも信じていたい。

③ 毎日がユリイカ！だらけです。目覚しく進化するメンバーとなら、何でも素敵な発見です。あと、好きなリップ二本を重ね塗りするとあんまり可愛くない発見もしました。



津村琴美 KOTOMI TSUMURA

① つむちゃんがんばり屋さんで、一生懸命さが伝わってくる子です。また、二歩一歩を確実に歩んでいる印象があります。そして、かわいいものに目がないというギャップも彼女の魅力です。(赤石さくら)

② 美味しいご飯。茶碗蒸しとか炊き込みご飯とか。

③ ラジオ体操第2完璧できるようにしました



富岡紗有 SAYU TOMIOKA

① 穏やか優しいノリがいい！おとは器用で作品に必要な小道具を作ってくれたり、物事を冷静に判断する能力があったりと、全ての能力が備わっている完璧ガールです！(朝倉穂)

② 自分達が生きていた証拠。この劇もその証拠のひとつになるのかも。

③ 自分は結構学校が好きというところ。毎日のように忘れて、毎日のように学校帰りにさみしさを感じてユリイカ！している。友達と笑いあって勉強する日々は楽しい！ユリイカ！



長澤映里香 ERIKA NAGASAWA

① エリーはしっかり者で、的確なアドバイスを沢山してくれてとても助かっています。自分では気がつく事の出来ない事に気づかせてくれます。ありがと。そして笑顔がすごく可愛い(長谷川七虹)

② 人と直接会って話すこと！とどんな機械化が進んでいっても人と関わらなくとも良くなっていくかもと聞わなくて、それだと人間らしくして無くなってしまう気がするから！

③ 暴飲暴食の恐ろしさ(笑)もう、本当に二度としたくないレベルで恐ろしかった……知りたくなかったですね、本当に(笑)でも、つつい食べちゃおう……(笑)でも、食べるの幸せですよ！



船井彩伽 ANAKA FUNAI

① きょうちゃんには本当にかわいい！声と顔き方が特にかわいい！目と黒髪が綺麗です！と頼んだことをすぐしてくれて、いつも周りを見て動いてくれる完璧ガールです♡(岩瀬藍末)

② 桜の木

③ 目玉焼きには塩コショウよりも醤油が合うこと



松本龍門 RYUTO MATSUMOTO

① まつもんくんの第一印象は「すごく真面目そう」です。でも実際のところは、面白くてよく笑う楽しい性格です！チャームポイントは黒縁メガネと低い声だと思えます★(小山明優)

② デイズ二のキャラクターたち！理由は好きだから(笑)宇宙人にも見てもらいたい！

③ 修学旅行のときに、ホテルのシャワーの出し方が複雑過ぎてめちゃくちゃ困ったこと(笑)



山田梨央 RIO YAMADA

① 本当に最初の頃は、おとなしそうな子だと思ってたのですが、打ち解けていくうちにおもしろい一面もあっていろいろな顔が見れる子だと思いました！(松本龍門)

② 周りを思いやる心です。これを忘れなければ、大抵の事はなんとかなると思います。

③ スマホや電気がありがたみです。最近スマホを失くしたり、停電して改めてこれだけこれに頼っているか痛感しました。失くす前に大切に気づける人になりたいです。

Staff Work

スタッフワーク

出演するだけが魅力じゃない
「高校生と劇の演劇」シリーズ。
劇場スタッフや最先端の現場で活躍している
プロのスタッフと共に、
高校生スタッフはさまざまな
仕事を担当しました。



★衣裳

デザインから考え、衣裳の富永美夏さんの指導のもと、
一から制服・小物の製作を行った。
ワンポイントで入る模様や、腰に掛ける小さなカバンなど、
近未来の世界観を出すため細部にこだわりを持って製作した。
また本番までは衣裳の洗濯・管理も行った。

★ホワイエ装飾

観客が来場して最初に入るホワイエの装飾を全員で担当。
高校生スタッフの紹介、衣裳や小道具の展示、
思わずインスタ映えで写真を撮りたくなるような
コーナーの設置など、さまざまな仕掛けを設置。
終演後に気軽に感想を張り付けられる感想ボードも作り、
観客が最初から最後まで楽しめるような空間づくりを行った。

★舞台美術・大道具・小道具

キャストが被る桂やヘルメットの製作や、
舞台監督の鳥養友美さんのもと、
舞台美術の木梓や椅子・ベンチの色塗りを行った。
また稽古や本番で道具が無くならないように
小道具機を作り、毎日管理と点検を行った。

★音響・アナウンス

高校生スタッフの1人がAIEリー先生役の声の出演、
及び開演前、終演後のアナウンスを担当した。
また、別の高校生スタッフは
音響の島貫聡さんの指導のもと、
録音した音声の音響操作を体験した。

★照明

照明の富山貴之さんのもと、本番中のヒンスポットの
操作を行い、キャストに光を当てた。

★稽古記録・代役

稽古で行われたことの記録を取り、
欠席した人でも稽古を追えるようにノートを作成・共有した。
稽古を円滑に進める役割も果たした。

★広報映像作成

TwitterやPLATiFacebookで流す
キャストのインタビューを撮影・編集した。
本作では本番直前の最後の追い込み宣伝として
大きな役割を果たした。

★Twitter

稽古の様子を写真付きで毎日ツイート。
『女子にしか言えない』から続いているアカウントは
320人以上がフォローしている。
(2019年2月現在)

1 集計結果

1 5月のオーディションワークショップについて

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	11	1	0	0	0
	スタッフ	3	3	2	0	0

●オーディションではあるけど、ワークショップ形式だったのに、変に緊張せず、楽しみながらオーディションに参加することができました。また、ワークショップを通じて勉強になることも多くあったので、可否に関わらず、参加するだけで、とてもいい経験になると思えました。

●みんなフレンドリーですぐになじめた。「実力ではなく、こんな子を取りたいって選ぶ」と聞いたので、変に緊張することなくのぞめた。

●演劇の経験がなく、知識が全くない状態で参加していたので、ものすごく不安でしたが、丁寧にゆっくりとしたペースでやって頂けたので、とてもやりやすかったです。

●スタッフの応募でも一緒のことができて楽しかった。



●今年受験生ということで、親とかから嫌な顔されながらも演劇とこの企画が好きだから参加しました。ただ、自分が将来どうしようか悩みながら参加していました。演劇を仕事にしたいのか、ただ趣味としてやっていきたいのか、自分の中でまだ決意が固まっています。でも今本番を終えて、自分は演劇を仕事として関わりたいという気持ちがあつていいと思います。自分の中に生まれました。舞台を創りあげると自分も分かったし、しんどさも分かったけど、それでもずっと演劇の側にいたい環境にいたいと思う気持ちもあつたので、本当に感謝の気持ちです。

●この企画を知ったのは3年前のことです、それからずっと参加したいと思っていたので、参加

2 プレワークワークショップについて

●ここにいる方達とこれから作品を創り上げていく事、自分が参加させていたただける事がとても嬉しかったです。不安もありましたが、どうやっていくか分からない事にとてもワクワクしました。ワークショップの最後に須貝さんが話してくれた時、出会う事ができて本当に良かったと思つた事を、今でも覚えています。

●楽しく、舞台のキホンなども勉強する機会があつたので良かったです。

●役者になるにあつて大切なことや、芝居をつくる上で大切なことが本当にたくさん詰まつた、とても密度の高い素敵な時間でした。メンバーのことをたくさん知ることができたし、これからはとても楽しみになる内容で、おもしろかったです。

2 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	10	2	0	0	0
	スタッフ	1	5	2	0	0
キャスト	長さ・回数	9	3	0	0	0
	スタッフ	2	5	1	0	0
キャスト	内容	12	0	0	0	0
	スタッフ	6	2	0	0	0

3 9月の自主練習について

●高校生たちだけでやることで、より高校生同士の団結力が深まり、演出チームから出されていた課題も、少しずつ上達していき、本稽古に備えていい時間になったと思います。須貝さんの過去作品も観ることができてよかったです。

●自主練習があつたおかげで、本稽古までの準備ができたので、この期間があつて本当に良かったと思います。またこの期間にメンバーとの交流を深めることができました。

●皆と8月に習ったことがどんどん上達していくのが楽しかったです。あんまり参加できなかったけど皆が優しくしてくれて嬉しかったです。発声もやってみたかつた事なので、ワクワクしました。

3 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	10	1	1	0	0
	スタッフ	2	3	2	0	0
キャスト	長さ・回数	8	3	1	0	0
	スタッフ	2	5	0	0	0
キャスト	内容	10	1	1	0	0
	スタッフ	2	4	1	0	0

※スタッフの未記入/1名

●公演を終えてから1日でも「減び」について考えなかつた日はないと思います。私自身、人生の中でここまで濃い日々を過ごしたことがなかつたので、その分、今の生活に物足りなさを感じるが増えました。(中略)前は進路に迷っていて、特に夢はなかつたので、就職しようかと思つていたので、今は、演劇について学べる大学に進学しようと思つていました。この選択が正しいのかは、まだ分かりませんが、今考える最もベストな選択だと思つていて、それがこの企画があつてこそだし、出会っていなかつたら一生自分の物事に対する情熱に気付けなかつたかもしれせん。

●稽古で今まで経験したことのないことを多くしたし、これまでにないほど緊張したし、役について自分でも考えられないほど悩んだ

5-1 公演を終えて

●稽古期間はとても忙しかったです。それだけ充実した毎日を送ることができたと思います。参加することにも悩んだし、実際にやってみて苦労したけれど、やって良かったです。今まで何かあるとクヨクヨ悩んで立ち止まってしまうことも多かつたのですが、公演が終わってからは、前を向いて、とりあえず進んでみようという気持ちが強くなりました。

5-2 この企画に参加することで当初どんなことを望み、何をしたいと思つたか？またそれらは実現されたか？

●今年受験生ということで、親とかから嫌な顔されながらも演劇とこの企画が好きだから参加しました。ただ、自分が将来どうしようか悩みながら参加していました。演劇を仕事にしたいのか、ただ趣味としてやっていきたいのか、自分の中でまだ決意が固まっています。でも今本番を終えて、自分は演劇を仕事として関わりたいという気持ちがあつていいと思います。自分の中に生まれました。舞台を創りあげると自分も分かったし、しんどさも分かったけど、それでもずっと演劇の側にいたい環境にいたいと思う気持ちもあつたので、本当に感謝の気持ちです。

●大まかに演劇はどのように創られていくのか、というのが知りたくて応募しました。これは、稽古に参加して解決されましたが、参加していくうちに、役を通して自分の癖や、できないことを発見し、自分のこと、あまり知らないのだなと思われました。いくつかの癖は見つけましたが、まだまだ自分の知らないところは

4 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	12	0	0	0	0
	スタッフ	4	4	0	0	0
キャスト	長さ・回数	11	0	1	0	0
	スタッフ	4	4	0	0	0
キャスト	内容	12	0	0	0	0
	スタッフ	5	3	0	0	0

4 稽古について

●とても充実していた日々でした。勉強の場所を作っていたいたり、学業との両立のサポートもあつても良かったです。

●演劇経験がなかつた私でもわかるように説明してくださつたので、何の障害もなく稽古に臨めた。演技だけでなく、精神面も成長することができた。

●約1ヶ月というのは聞くだけでも早く感じますが、体感でもすごく早く感じました。実際私は結構ギリギリでした。でも期間が短いことで、すごく集中できたし、ほとんど完成に近づけるのが快感でもありました。

●須貝さんも言つた通り、「とにかくやる」ではなく「みんなて話し合いをしてからやる」ことよって、台本と向き合う時間が増え、いろんな役と向き合えたのがよかつた。

●とても濃い時間でした。私は毎日、とはいきませんが、みんなと顔を合わせ、一つの作品を創るために過ごす時間はとても楽しかつたです。高校演劇しかやつたことがなかつたので、プロの方達が創る演劇はこんなふう創っていくんだなあと(仕込みや、音響

し、本番までの1カ月と少しは辛いことや苦しいこともありましたが、でもそれは上手い言葉に表せないけれど、いい辛さだったのかなと思います。千秋楽が終わるまでは不安とドキドキでいっぱいだったけれど、千秋楽が終わった瞬間すごく達成感がありました。でも終わってしまうのが寂しかったです。

●私は参加する前でもネガティブな性格でしたが、参加して、前より自分を好きになることができ、「どうせ」という口ぐせもあまり使わなくなりしました。それに、物事を深く考えられるようになりました。台本に書かれた台詞を深く考える様に物事一つ一つ深く考える様になりました。また、さまざまな大人の方々と関わることで、学校や家庭とはまた違った社会性も身につけることができました。



参加を決めました。「同じ世代の子とみんなでものつくりをする」とか「高校生の感性のうちにもつくりをする」とか、そういう目的もあつたけど、自分の限界までひを想って真剣に芝居に関わってみて、という賭けみたいなことが、精いっぱいできてよかつたです。あのときはとても真剣で、日々、いつも限界までやつたつもりでも、まだできる、と感じてしまうことがありました。自分の可能性や知らなかつた力があることが分かつて、うれしかつたです。

あると思うので探していきたいと思つた。ただ演劇が好きだったので、もっと上手になりたいと思つていました。参加してみたら演劇自体の考え方が変わって、演じる上で大切なことはもちろん、社会に出てから大切なことも教えてもらえてとてもいい時間でした。本番を観にくれてくれた家族から、上手くなったと言ってもらえたので、実現したいと思つた。一生舞台に関わって生きたいとも強く思うようになりました！

●もっと自分にはやれることがある、と昨年方ンボを終えて感じました。だから私は自分がやるだけの限界をもっと知りたくて、2年目も

高校生キャスト・スタッフアンケート

●キャスト
●高校生スタッフ



7 その他
意見・メッセージ

●家の近くや駅の近くにプラットが建てられたので、来やすくなりましたし、学割もあるため、演劇が観やすい環境になって演劇を観る回数も増えました。また、プラットの皆さんは優しくあたたかいので、好きです。

●これからもっと舞台上に興味をもつ学生が増えると思います。

●今回の公演に関わったおかげでプラットについても知ることができ、これからワークショップとか参加してみたいと思います。

8 高校生スタッフの仕事について



●話をきいてまとめることが苦手なので、稽古記録という係が上手く務まるか自信がなかったのですが、回数を重ねるうちに書き方、まとめ方が分かっていったような感じになります。

●照明の富山さんが、高校生スタッフもできる仕事を考えてくださって、本番で実際にピンスポットを操作できたのはとてもいい経験になりました。

●とにかくいろいろな部署のお仕事をさせてもらったのが本当によかったと思います。また、部活とかじゃ絶対にできないくらい深い仕事のできたのがうれしかったです。私はとても不器用だし、スタッフの仕事もやったことがなくてすごく不安でした。でも大人スタッフの方々が高校生のみんなが私でもわかるように何度も教えてくれて、いろいろなことができるようになりました。大人の方々と距離が近く、公演以外についても話すことができました。本当にいろいろな物に関われたので達成感がすごかったです。また物づくりが苦手でしたが少しそれも克服できたと思います。1つの演劇にどんな人が関わるとかとても学べました。

●1番特定の仕事じゃなかった役割でしたが、その分、たくさん仕事を体験できました。衣裳のお手伝いに入った時は、こんな本格的に作っているんだなあとミシンに苦戦しつつ、思っていました。どの仕事にしろ、みんなアイデアをひねり出しながら進めていくのが楽しかったです。「ガンボ」に参加していた子から、音響と照明は、ほとんどプロの方がやるから、あまり仕事がないよと聞いてはいましたが、ずっと音響をやりたいと思っていました。須貝さんや島貫さんはじめ、プロの方達のご厚意で、音響も触らせてもらえる機会を作ってくれたのがとても、とても嬉しかったです。

集計結果 8

	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
スタッフ	長さ回数	4	3	0	0
	内容	4	3	0	0

※未記入/1名

6 今後プラットに対する期待・要望

●来年もぜひこの企画を続けてください！お願いします。この企画に参加している高校生だけでなく、それを観に来る高校生、学生が多いと思うので、演劇についてよく知らない人にもなると思います。よく知らない人だとしても、「え、高校生なのに〇円もとるの!？」と思う人も世の中にはいるので、いかにそういう人にも興味を持ってもらうか(チケット代をつけることはむしろ、責任を持つということだと思います)と思うのですが、ということも大切だと感じました。

●高校生と創る演劇をこれからも継続していつて欲しい。こんなに良い影響を与えてくれる企画はないと思うので、10年、20年と長く続いていく企画になったらいいと思います。

★ 新聞記事 Newspaper article

読売新聞/2018年10月31日掲載

高校生演劇 葛藤描く

豊橋で3、4日

プロ指導の下稽古に汗

あすから「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。

「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。プロ指導の下稽古に汗を流す高校生たち。

東日新聞/2018年11月1日掲載

高校生と創る演劇第5弾

「滅びの子らに星の祈りを」稽古に励む

あすから「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。

「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。プロ指導の下稽古に汗を流す高校生たち。

中日新聞/2018年11月2日掲載

個性豊かな高校生 SF作品と格闘

プロが演出 稽古であすから演劇

あすから「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。

「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。プロ指導の下稽古に汗を流す高校生たち。

東愛知新聞/2018年11月2日掲載

プロ演出の高校生舞台

あすから「滅びの子らに星の祈りを」

あすから「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。

「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。プロ指導の下稽古に汗を流す高校生たち。

朝日新聞/2018年10月25日掲載

高校生ら12人とプロ演出家 連日稽古

出演者の個性イメージ「あてがき」脚本

あすから「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。

「滅びの子らに星の祈りを」オムニバス演劇の稽古が始まる。プロ指導の下稽古に汗を流す高校生たち。

※掲載の記事・写真は各新聞社の許諾を得て掲載しています。

主権/豊橋市、企画制作/種の間とよはし、芸術劇場PLAT

制作 藤田晶久

制作 高野まゆ、高井友太、伊藤華織、田中博之、稲垣卓

制作 矢作勝義、石田晶子、大橋玲、永田直子

票券 種の間とよはし、芸術劇場PLAT

STAFF

脚本・演出 須貝英

演出助手 岩永彩、レベッカ

美術 原田愛

照明 富山貴之

音響 島貫聡

衣装 富永美夏

舞台監督 鳥養友美

宣伝美術 共田慎性

宣伝写真 中川裕樹

宣伝写真 萩原ヤスオ

舞台写真 伊藤華織

記録撮影 田中博之

稲垣卓

高井友太

高野まゆ

矢作勝義

石田晶子

大橋玲

永田直子

藤田晶久

●助成 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)川 独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁

